

学習スタイルに合わせた番組の視聴と、深い学びの実現

神奈川県川崎市立平間小学校 教諭 宮崎 誠

小学校4年 理科 「ふしぎがいっぱい 4年生」

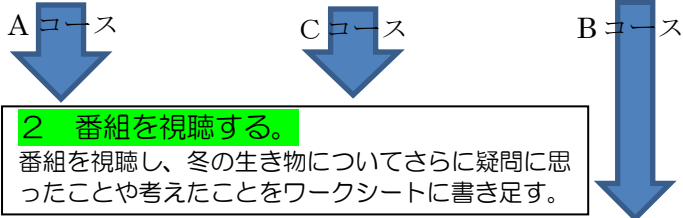
【活用回・番組紹介】「冬になると…?」

小学校4年生を対象に作られた理科番組。植物や昆虫の様子や、星や月の動きといった、いつも何気なく見ているものに隠れている「ふしぎ」を探していく。

【授業デザイン】冬の生き物

1 冬の生き物について、考えを出し合う。

春、夏、秋と学校や地域の生き物を観察したり、日常的にかかわったりする中で、経験したことや、疑問に思ったこと、考えたことを出し合い、冬の生き物の様子を予想する。

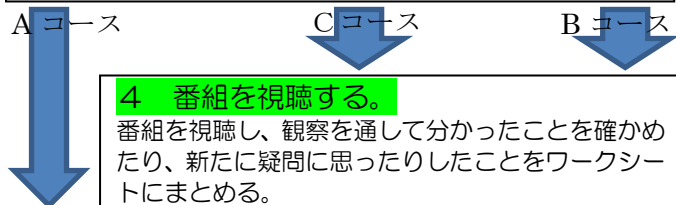


2 番組を視聴する。

番組を視聴し、冬の生き物についてさらに疑問に思ったことや考えたことをワークシートに書き足す。

3 校庭の自然を観察する。

1または1, 2の活動をもとにそれぞれが予想をもって校庭の自然を観察する。



4 番組を視聴する。

番組を視聴し、観察を通して分かったことを確かめたり、新たに疑問に思ったりしたことをワークシートにまとめる。

5 観察して分かったことを交流する。

グループごとに、それぞれが観察して分かったことを、思考ツールにまとめる。



6 まとめる。

各グループのまとめから、クラス全体で分かったことをまとめる。

【本学級の学習スタイルと実態と関連したねらい】

- A 学びを意味づけてから行動するのが得意 41%
- B 行動しながら学びを意味づけるのが得意 50%
- C 時間をかけて学びを意味づけるのが得意 9%

AタイプとBタイプが同じくらいの人数を占めている。また、Cタイプの児童の割合は低い。本実践では、番組の視聴するタイミングを、児童一人一人に選択できるようにし、学習スタイルに応じた番組の教育的効果を期待した。

【今回の実践における番組の教育的効果】

- 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる。(B、Cコース)
- 日常的な事象に対して、新たな見方や感覚を与えて、課題を発見する。(B、Cコース)
- 課題解決のための手がかりを与える。(A、Cコース)

【深い学びに関する教師の工夫】

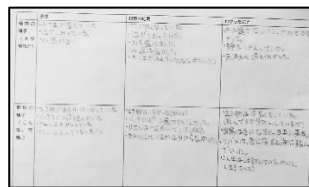
近隣の地域は住宅に囲まれており、本校の子供たちが冬の時期に多くの生き物に触れる機会をもつことはあまりない。A、B、Cタイプの児童が、それぞれ自分に合った視聴方法を選択することで、日常の体験の差を補う番組の視聴ができればと考えた。

○ 視聴方法の選択

全体で導入をした後、「番組を見てから、予想を見直して観察に行く(Aコース)」「観察を終えてから、確かめのために番組を見る(Bコース)」「観察の前後に番組を2回見る(Cコース)」という番組の視聴の機会を設定した。番組の放送時間を決め、自分で番組を見たい時に見ることができるようにした。コースのA、B、Cは、学習スタイルのA、B、Cと対応している。自分に合った番組の視聴方法を選択することで、観察や、考えを交流する活動に主体的に参加できると考えた。

○ グループでの交流と思考ツールの活用

グループで、それぞれが分かったことを交流する際は、マトリックスを使って、予想と観察したこと、分かったことが視覚的に整理できるようにした。また課題の理解に時間がかかり、十分に観察ができなかった児童が友達の考えから冬の生き物に対する理解を深められるようにした。



【成果と課題】

冬の生き物と普段なかなかなかかわることがなく、特に動物の様子を想像することができない児童が多かったが、番組の活用をすることで、進んで活動に参加する児童が多かった。実習が伴う学習では、視聴の仕方を選択することで、同じ時間でも違った教育効果がねらえることが分かった。しかし、児童が視聴方法を選択できるようにしたことで、Aタイプの児童がBコースを選択していたり、Bタイプの児童がAコースを選択していたりしており、児童それぞれが自分に合った視聴方法を適切に選択できていたかはわからなかった。学習スタイルと視聴スタイルを単純に組み合わせることは容易でないことが分かった。一人一人が自分に合った視聴スタイルを児童が選択できるように、また授業以外でも進んで児童が番組とかかわり、再び自分から身近な自然にかかわろうとできるように、実践を重ねてみたいと思った。